

平成 30 年度 自己点検・自己評価公表シート

認定こども園エクレス

1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる」ことを教育・保育方針とする。

そのために次の 6 項目を教育・保育目標とする。

①楽しい教育

②義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

③やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる。

④「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の“4つのつばさ”を保護者と共に育てる。

⑤個を大切にしながら、自立と自律の、発達を促す教育と保育を進める。

⑥遊びと学びを通して基本的生活習慣を身につけ、生きる力を育む。

2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

【3～6歳児】

- ・異年齢の関わりが持てるよう、保育内容を吟味し指導計画を立て、年齢に応じた援助を行う。
- ・異年齢保育を行う中で、次年度に向けての改善点を洗い出し、子どもの成長にとってより良い環境を考案していく。

3. 学年別目標・計画

0歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。
3歳児	友達との関わりを持ち、色々な経験を通じて園生活を楽しむ。
4歳児	園生活に慣れ親しみ、基本的生活習慣を身に付け、集団の中の一人として自立する。
5歳児	学級の中で一人一人が自己発揮し、自分たちで自主的に園生活を進めていくようにする。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 教育・保育目標の理解と周知 教育・保育理念、教育・保育方針、教育目標について、教職員間の共通理解ができているか	学園の理念、園の教育・保育理念、目標については、日ごろから周知することができており、専任教職員については共通理解が出来ている。本年度の課題となっていた非常勤職員については、幼稚園部分においては、議事録の周知や非常勤職員や預かり保育担当職員を対象にした職員会議を設け、その中で共通理解を図った。保育園部分については、人員不足もあり、まとまった時間を取りることが難しく積極的な取り組みができない。次年度に向けて改善をする必要がある。
2. 教育・保育内容 教育・保育要領の理解、教育・保育指針を踏まえた指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができるか	指導計画は、教育・保育指針を踏まえ、年齢に応じた園児の理解と発達状況に対応して作成ができている。日々の保育の記録をとり、園児のサポート状況等教員間で情報共有するとともに、改善への取り組みもできている。
3. 教育・保育環境 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができるか	教材・教具を適切に活用することができている。園児の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成できる用具・材料を適切に準備し配置する点においては、部内での研修実施等の成果も見られ、前年度と比較して改善は出来ているものの、教職員の達成度に若干のばらつきがあるため、継続して勉強会等を行い、レベルアップを図っていきたい。
4. 行事 ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数はてきせつか PDCA体制をとっているか	保護者向けアンケートの実施により、保護者の要望や意見を取り入れたうえで、P D C Aを回しながら実施しており、年々教育の質の向上が見られる。保護者との協力体制も確立しており、園児の自主的・実践的な取り組みになっている。 縦割り保育導入の2年目となった本年度は、教育のねらいを鑑み、新しい取り組みとして、音楽発表とミュージカル発表を別日に分けて行った。音楽発表は、音楽参観として縦割りで実施、ミュージカルは例年どおりの横割りで実施。一定の成果を得ることができた。
5. 教職員の役割・資質向上 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の教職員との連携はできているか	専門的な知識・良識等については、学園内外の研修参加もあることから、ほぼ目標値を達成できているが、人により差があるため、段階別研修等を導入した。園児との共感、満足感や心の安定の提供、善悪の判断、思いやりの気持ちなどの育みは、適切な言葉・行動とも、積極的な働きかけができている。また、一人ひとりを大切に受け止め、個々の特性に合わせた指導もできている。
6. 特別支援教育 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができるか	当該園児についての情報の共有については、共有のシステム化がなされており、共通理解のもと支援体制を整えることができている。また、家庭・医療・福祉との連携も密に図れている。職員の知識向上という点においては、学園内外での研修参加の機会も設けているが、自己研鑽という点では、自己評価が低い。保育園においては、人員不足が影響して、スケジュール調整ができなかった例もある。次年度より新人事システムが導入される。自己研鑽の有無を評価基準に盛り込む等の検討をしていきたい。

7. 保健・安全指導	避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができるか	避難訓練、交通安全教室等を計画に基づいて実施している。園舎・園庭の施設・設備の安全点検は、計画性を持って実施しているが、保育室内の細かいチェック等さらなるステップアップを目指す。健康・安全な生活に必要な習慣等の取り組みについては、園内掲示物やメール発信等を活用して実施している。アレルギーへの理解は研修の実施・参加を積極的に行つたほか、アレルギー児への対応は委託業者と連携をとりつつ、複数のチェックを行い、事故を未然に防いでいる。
-------------------	--	---

評価項目	取り組み状況
8. 保護者との連携・情報 保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか	個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができて取り扱っている。 保護者からの要望や意見には真摯対応をしている。園内外で発生した事案について、ヒヤリハットとして個人情報を消去したうえで、職員間の共有を図っている。 保護者への園の情報は年間行事予定表・園だより・クラスだより・メール等で発信しているほか、定期的に懇談会や教育説明会を開催し伝えている。また、保護者は保育参加や教材づくりをとおして、園の教育・保育の理解促進ができる。
9. 子育て支援 子育て支援の取り組み、保護者の要望に応じた預かり保育の実施ができるか	地域や保護者の実情や要望を取り入れ、年間の計画を立て、定期的に子育て支援を実施しており、参加者は年々増加している。 また、預かり保育については、保護者の要望を考慮し、国の定めた時間外も延長して実施するなど、積極的な取り組みを行った。 加えて、年2回個別面談の時間を設け、子育て相談に応じているほか、毎日の引き渡し等の際、保護者相談にのるなどの対応をしている。
10. 幼保小連携・地域交流 地域の小学校との教育交流、地域住民の方への園行事等の周知、参加交流を行っているか	姉妹園との交流計画を立て、定期的に実施している。また、地域小学校との交流の機会を積極的に設けて行っている。園だより等の園の情報も定期的に近隣の小学校や自治会にお渡ししている。 園行事にも地域交流の機会を取り入れ、地域住民との交流の機会を設けている。
11. 運営管理 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができるか 保育園部分と幼稚園部分の連携が取れているか 保育室等の環境の整理・整備ができるか ヒヤリハットを記録・共有し、教育・保育に役立てているか	組織としての役割分担が明確になっており、職員それぞれが全体の中での自分の役割を自覚して職務にあたることができている。職員間の情報共有及び意見交換等については、朝礼・終礼、職員会議に加え、グループウェアを活用し行っている。 昨年度の課題として挙がった幼稚園と保育園の連携強化については、乳児から幼児までのP A（パフォーマンスアセスメント）表の作成等教育・保育システムの構築を目的としたワーキンググループを立ち上げ審議検討を行った。次年度も継続予定である。
12. 特徴的な教育 モンテッソーリ教育理念の理解、インクルーシブ保育下における個々の発達に応じた保育ができるか	異年齢同クラスの取り組みを行っている意味を理解し、個々に応じた援助、保育展開ができる。 モンテッソーリの教育理念を理解し、教具教材の直接目的、間接目的を理解したうえで保育にあたっている。 また、インクルーシブ保育の下、障害の名にとらわれず、その子の発達に応じた保育ができる。 幼稚園部分においては、各グループに担当を設置、担当者同士の打

	<p>ち合わせを行うようにした。これまで一人の職員から降ろさせていた活動内容もグループの担当から発信され、活動に必要な準備物も一覧にして利便性が増した。縦割りになり、昨年度に比べて各学年とも高いレベルの活動に取り組む園児が多くなっている。</p> <p>保育園部分においては、導入して日が浅いため、まずは教職員のレベルアップが課題であったため、年間計画で部内の研修を実施し、教具の目的や提示方法といった基本的な研修を行った。また、季節ごとの教具作成もとりかかっている。園児も集中して取り組む子も増えてきている。</p>
--	---

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 教育・保育目標の理解と周知	全体の共通理解度をさらにワンステップ上げ、底上げを図る。
2. 行事	今年度の新しい取り組みを継続して実施し、成果を検証する。
3. 特別支援教育	自己研鑽の必要性についての理解を深める。
4. 保健・安全指導	園内（特に保育室内）の細部にわたる安全チェック表の作成と点検方法の見直し（継続実施）
5. 運営管理	教育システムの構築を一段階進める。

平成 31 年 3 月 1 日